

此の度皆様方の御盡方に依りまして此處に創立二十週年記念號として第十三回目の有朋會誌をまことのごく合併して發刊致す事を得ました事は會員の一人として誠に幸と存じます

付いては昨秋母校の落成と共に二十週年記念祝賀會を開催致されましたに付きまして皆様方の多大の御援助を仰ぎましたにも係らず非常に多額の經費を要しましたのに未だ不足額も多うございますので誠に御免倒乍ら當日御出席下さらなかつた方々又は郡部の方等で未納の方がございましたならば此の際御寄附を御願ひ致したいと存じます

次に在廣幹事の方の獻身的奮闘によりまして有朋會の事業の一端として母校内實營部の仕事を引き受け、て繼續して頂く事になりましたので此の誌上を借りて簡單に御報告申し上げます何れ近日中に幹事會台の上其の方の理事の決定を見る筈でございます

最後に先日幹事會の席上に於てお話の御座いましたバザーの件でございますが、かねて計劃中の處一年の震災の爲其の後一時やむなく中止の形になつてゐましたが此の程相談の結果學校の方でもお赦し下

さいましたので今春四月頃の好季節を待つて取り行ふ豫定でございます。

何れその節は皆様御力添下さいます様御願ひ致します、付きましては此の度も先年の如く會員の方々に制作品をお願ひ致したいと存じますので御多忙中を甚だ御迷惑とは存じますが何卒よろしく御願ひ致します。

付いては其の方の材料等御入用の方は御遠慮なく御申越し下さいますれば誠に幸と存じます、

未だ時日も御座いますが御遠方の方々も多い事で御座いますから既に編輯後のところを、取り忙し御知らせ申し上げます。

(友朋會校内雜誌部員)

在アメリカの皆様様へ

寄宿舎生徒一同より

夏から秋へ秋から冬へ、時は移つて行きます。

あれから—私達の寮舎に起つた嫌な病氣から、最早秋と云ふ寂人も彼方へ去りました、今も灰色に閉ぢ

込めた冬の空から、チラ／＼と美しい花が散つて参ります。御部屋の白い障子にサラ／＼と散つては、

又音もなく黒い地上に消ゆる雪が、私達の心をしつとり落付けて呉れます。こうした日本の小さい寮舎から、百人餘の少女が曾ての日、私達に厚い御情をたかけ下さつた、海のあなたの皆様様の御上を御偲び申して居ります。ほんとに嬉しう御座いました。

當時私たちは、皆暗黒な心を抱いて戦いて居りましたものを。皆様様の御情けは只戴く心に熱い／＼涙となつて溢れるばかりでございます。只今もこうして外の静かな雪に耳を傾けながら、ありし日の事を思ふにつけ、皆様方の御情を又新しくくりかへします。あのた情をいつ迄も／＼この寮に、學ぶ子の心に、記念する爲、私達は鏡を求めました。鏡を前にして健康な私達の姿を寫すにつけ、あの後から鏡の奥からお情厚い皆様方が出て下さいますればなぞと思ひます。兎もあれ、今日から私達は朝な夕な此の鏡に接して、去りし日の記念ともなし、おしたはしい皆様方を御偲び申します。私達の心をも寫して磨いて参ります。

さきからの雪もやみました。

にうカレンダーには、立春の文字が表れてをります春も近づいてまゐりました、

いよ／＼御すこやかにと、遠い故國の一隅から皆様御ことは申し上げます、ありがとうございます。

編輯便

○誠の二十週年記念號が出来上りました。今回は有朋と連合して發行する事に致しました。有朋會誌と誠の徳とは從來別々に發行して参りましたが今回在校生にまゐりましても、卒業生にまゐりましても、共通な誠に御目出度い記念祝賀式と爲ぐため聯合した次第で御座います。私は今より十數年前さる學校の校友會誌創刊號と第二號とを發行した事がありました但其の際には卒業生會誌と校友會誌とは矢張り同一でありました。其は草創の際でありましたから連合して居たもの、是非機を見て分離して發行したい希望でありまして後に其れが實行されました。今度のは其の意味とは全く異りまして勿論次號からは別々に發行致したいと思つて居ります

○表紙の圖案は觀洋先生の御揮毫にかゝるもので空に聳ゆる白塔及講堂は輪奐の美を代表し、内におほし立つる大和撫子は其の健實貞淑なる在校生を象徴し、青色は發展を意味し、赫色は實實剛健を表はして居るので御座います。我が校が形式に於て將た内容に於て益々向上し來りてやまざる點を表はさんぞ致しましたもので校務の編

が上にも御多忙なる最中に快く御揮毫下さった事は一同感謝致さなければなりません

○口繪の多くは石井先生の御撮影にかゝるもので記念式に出席ならなかつた方にも其の盛會の状況を御偲び下さるためにもと出来る文け多く掲げる様に致しました

○在生と卒業生と連合したため相互に記事を減じました特に遺憾なのは在校生の選文が減じた事で御座います。都合によれば選文のみを期を見て発行せよと思つて居ります。左様御承知下さい

○豫定より発行の遅れる事は誠に遺憾であります。二千餘の卒業生千餘の在校生の原稿を整理致して居る中に第二學期末の試験などのためにやむを得ず後たので御座います。御諒察下さい。夫れにつけても筑瀬先生原先生を始め客員卒業生の方が御多忙中にも拘らず澤山御投稿下さった事を感謝致さなければなりません

○學生の風儀に就いては近頃よく問題に上ります。昨秋の我が縣會にも問題になりました。日々其の數を増す學生の間に多少いかゞはしきものあるはやむを得ざる事は曰へ我等は相互に警戒せなければなりません。我等千餘名の同窓の間には分厘の濁りも許しません。年寒くして松柏の凋に後るるを知るが如く。此の際益々吾等の秋霜烈日の如き意氣を發揮致さうではありませんか。



大正十四年二月二十日印刷
大正十四年二月廿三日發行

編輯者兼
發行者

廣島縣立廣島高等女學校
校友會

右代表者

廣島縣立廣島高等女學校
椎野佐立

印刷者

廣島市上流川町十四番地ノ二
山田重郎

電話二二六一番

終

